

成人看護学概論	講師：	1年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> I 成人期の特徴及び発達課題を学び、成人看護の目的、機能と役割を理解する。 II 成人看護に必要な看護理論を用いて疾患とともに生活する成人期を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 成人期の特徴  (1) 成人期の身体的・心理的・社会的文化的特徴  ①ライフサイクルにおける成人期の発達課題  ②成人期の心身の成長  エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン  (2) 成人期とセクシュアリティ </div> <div> 2 わが国の成人各期の保健施策  (1) 国民健康づくり運動と健康増進  (2) 地域・職場における保健事業と法 </div> <div> 3 成人の生活と健康  (1) 健康に影響を及ぼす要因  ①生活環境と生活習慣  ②職業と職場環境  (2) 現代のライフスタイルと健康状況  ・成人各期の疾病（死因・受療率）の概況  (3) 社会的役割と治療と生活  ・健康の維持・予防 </div> <div> 4 成人看護学に用いられる基礎理論  (1) ストレスコーピング理論  (2) 危機理論  (3) セルフケア理論  (4) 家族システム理論 </div> <div> 5 成人期にある対象への系統的アプローチ  (1) 全体像を把握するためのアセスメント方法  ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント </div> <div> 6 成人期にある対象の健康の保持と健康レベルに応じた対象の理解と看護  (1) 成人期の看護の特徴  (2) ヘルスプロモーションへ向けたプライマリヘルスケア  (3) 生活機能障害のある人への看護  (4) 急性期にある人の特徴と看護の役割（クリティカルケア・周手術期ケア）  (5) 慢性期・リハビリ期の対象の特徴と看護の役割（治療的セルフケア） </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験、レポート			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（1）成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

成人看護学方法論Ⅰ (急性期ケア)	講師：	2年前期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 生命危機状態にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的特徴を学び、急性期ケアに必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 急性期ケアが必要な患者の特徴  (1) 急性期ケアと集中治療  (2) 患者の精神的特徴  ① ストレス  ② せん妄状態 </div> <div> (2) 循環機能障害にある患者の看護  ① 虚血性心筋障害の急性期の看護  (心筋梗塞、狭心症)  ・急性期のアセスメントの視点  ・循環動態、呼吸の管理  中心静脈圧測定(CVP)  ・補助循環装置装着中の看護  ・苦痛の軽減  ・合併症・再発作の予防  ・薬物療法の管理  ・発作の予防と患者指導  ・心臓リハビリテーション  ② 刺激伝導系障害時(不整脈)の看護  ・薬物療法とアセスメントの視点  ・ペースメーカー装着時の看護  ③ 心臓カテーテル検査・治療時の看護  ・右心カテーテル、左心カテーテル検査と看護  ・インターベンション治療と看護 </div> </div>			
2 生命が危機状態にある患者の看護 (1) 中枢性意識障害にある患者の看護 (脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、脳腫瘍) ① 意識障害の程度・分類・原因 ② 脳血管障害時の看護 ・急性期のアセスメントの視点 ・循環動態(血圧)、呼吸の管理 ・輸液と水分平衡管理 ・環境の調整 ・二次的障害・合併症の予防 ③ 人工呼吸器装着時の看護 ④ 頭蓋内圧亢進時の看護			
3 生命が危機状態にある患者の家族への配慮と看護			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験、レポート(経皮冠動脈インターベンションを受ける患者の情報の解釈・分析と問題の明確化)			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院			

成人看護学方法論Ⅱ (周手術期ケア)	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 周手術期にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的変化を学び、麻酔や手術による形態機能の変化に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 手術、麻酔が身体へ及ぼす影響と看護  (1) 術前・術後の看護  ①術前の意思決定  ②患者を支える家族の役割  (2) 全身麻酔と局所麻酔  ①術前オリエンテーション  ②手術に対する不安・恐怖への援助  ③術前検査と術前処置  ④呼吸訓練  (3) 術中の看護  ①手術室の環境  ②麻酔導入時の看護  ③手術体位の固定  ④麻酔時の全身管理  2 術後の看護  (1) 術後の病床環境調整  (2) 術直後のアセスメントの視点  ①意識状態 ②呼吸状態  ③出血量 ④循環動態および水分平衡  (3) 術後合併症の予防のための看護  ①呼吸器系合併症（無気肺・肺炎）  ・肺理学療法（排痰体位）  ・離床への援助 </div> <div> ②循環器系合併症（ショック、血栓症）  ③消化器系合併症（腸閉塞）  ④泌尿器系合併症  （尿路感染、排尿障害）  ⑤術後せん妄  (4) 術後の急性疼痛と看護  ①疼痛のアセスメント  ②術後鎮痛法：局所・全身投与  (5) 術式に応じた看護  ①開頭術（脳腫瘍）  脳室・脳槽ドレーン留置中の看護  ②乳がん切除術  携帯用低圧持続吸引器の管理  ボディイメージの変容と看護  ③子宮全摘出術  ④開胸術（肺がん）  胸腔ドレーン挿入中の管理  ⑤開腹術（胃がん・大腸がん）  腹部ドレーン管理  ⑥腹腔鏡下内視鏡術（胆石症）  (6) 胃切除後症候群に対する生活指導  ①ダンピング症候群  ②逆流性食道炎  ③貧血 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内演習（手術療法を受ける患者の観察とアセスメント）			
<b>評価方法</b> 筆記試験、レポート（胃がんで手術療法を受ける患者の情報の解釈・分析と問題の明確化）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5）消化器 医学書院 成人看護学 周手術期看護論 スーヴェルヒロカワ			

成人看護学方法論Ⅲ  (セルフケア)	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 合併症・二次障害の予防のために生活の自己管理が必要な慢性期の患者の特徴を学び、セルフケアに必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div><div><div>1 セルフケアの必要な患者の特徴 (1) 慢性疾患・慢性期とセルフケア (2) 患者の身体的特徴 ①機能低下 ②不可逆的な変化 (3) 患者の精神的特徴</div><div>2 慢性期の患者の看護 (1) 肝機能障害にある患者の看護 (肝硬変、肝臓がん) ①アセスメントの視点 ②症状（黄疸、腹水、肝性脳症等）出現時の看護 ③治療・検査時の看護 ・インターフェロン療法時の看護 ・肝庇護、肝機能障害の進行、合併症予防の生活指導 ・肝動脈塞栓術・肝生検の合併症と看護 (2) 腎機能障害にある患者の看護 (腎不全、尿毒症) ①アセスメントの視点 ②症状（浮腫、高血圧、尿の異常、尿毒症等）出現時の看護</div></div><div><div>③治療・検査時の看護 ・薬物療法（利尿剤・降圧剤、ステロイド療法）と看護 ・生活指導、食事療法と看護 ・血液透析・腹膜透析時の看護 (3) 甲状腺・副甲状腺機能障害にある患者の看護 ①アセスメントの視点 ②症状（意識障害、テタニー、甲状腺クリーゼ、高カルシウム血症等）出現時の看護 ③治療・検査時の看護 ・薬物療法（抗甲状腺薬、放射性ヨード）と看護 ・生活指導、食事療法と看護</div><div>3 慢性疾患患者の家族への看護 (1) 知識や情報の提供 (2) 患者ケアへの参加の促進</div></div></div>			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（1）成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5）消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（8）腎・泌尿器 医学書院			

成人看護学方法論Ⅳ (緩和ケア・がん看護)	講師：	2年後期	1単位(15時間)
<b>授業の目標</b> I 緩和ケアの必要な患者と家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルな特徴を学び、緩和ケアとがん看護に必要な知識・技術・態度を理解する。 II 放射線治療・化学療法における患者の身体的・心理的・社会的苦痛が理解でき、看護支援を考えることができる。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 緩和ケアの必要な患者の看護  (1) 緩和ケアとは  (2) 緩和ケアが必要な患者の特徴  (3) QOLと尊厳死  (4) 全人的苦痛と看護  ①身体的苦痛  ・痛みの原因と発生機序  ・がん性疼痛治療における基本原則  ・全身倦怠感  ・呼吸困難  ・消化器症状  ・浮腫、その他  ②心理社会的苦痛  ③スピリチュアルペイン  (5) 患者と家族の心理プロセスと看護  (6) がん患者の臨死期のケア  ・臨終時のケア  ・エンゼルケア  ・グリーフケア </div> <div> 2 がんサバイバーへの看護  (1) がんの治療の特徴  (2) 放射線治療と看護  ①放射線治療を受ける患者への指導  ・外部照射(乳がん、肺がん、食道がん、脳・骨転移)  ・小線源治療(舌がん、子宮がん)  ②部位別治療の看護  ③治療による有害事象と看護  (3) 化学療法と看護  ①化学療法の種類と効果  ②化学療法の感受性  ③抗がん剤暴露防止の方法  ④外来化学療法(乳がん)・動注化学療法(舌がん)時の看護  ⑤有害事象に対する看護  ・骨髄抑制  ・消化器毒性  ・腎毒性、その他  ⑥輸血療法と看護 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験、レポート(肺がんで化学療法を受ける患者の情報の解釈・分析と問題の明確化)			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーヴェルヒロカワ			

成人看護学方法論Ⅴ  (成人看護技術)	講師：	2年後期	1単位 (15時間)
<b>授業の目標</b> I 生命危機状態にある患者の看護に必要な看護技術を習得する。 II 慢性期の患者のセルフケアを維持、促進するための指導技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 心肺蘇生法  (1) 一次救命処置  ①気道の確保  ②人工呼吸  ③胸骨圧迫心臓マッサージ  ④心肺蘇生法の効果の見方  (2) 気道確保  気管内挿管  (3) AED  (4) 心電図モニター  ①モニター心電計  ②12誘導心電図 </div> <div> (4) 急性合併症出現時  ①糖尿病性ケトアシドーシス  ②高血糖高浸透圧症候群  ③低血糖  (5) 慢性合併症の早期発見・進行予防  ①網膜症  ②腎症  ③神経障害  ④足病変とフットケア </div> </div> 2 慢性期の患者のセルフケアを維持、 促進するための指導技術 (1) 自己血糖測定 (2) インスリン自己注射 (3) シックデイ			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 心肺蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ、AED）（モデル人形） 心電図モニター装着・12誘導心電計の取り扱い・簡易血糖測定・患者指導 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院			